

令和5年度 日本大学藤沢高等学校・中学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

日本大学の教育理念である「自主創造」にのっとり、校訓として「健康」、「有為」、「品格」を掲げ、付属校の特性を生かして中学・高校・大学の10か年教育の展望とゆとりをもって、心身共にバランスのとれた豊かな人間形成と国際的素養の育成を目指す。

〔本校の特徴〕

具体的な教育目標は、学業においては、基礎学力の充実と無理のない先取り学習を実施し、併設中学校及び高校1年次からの特別進学クラスの設置により、日本大学はもちろん他の難関大学も視野に入れた教育を行うことで、更なる進路実績の向上を目指す。また、社会性を育むために部活動や生徒会活動、学校行事等への積極的な参加を奨励し、バランスのとれた教育を実践している。

〔令和5年度の重点目標〕

魅力的な学校紹介を行う広報活動により、本校の中学校・高校への志願者を増やし、経営が安定する入学者数を確保する。令和4年度からの高校新カリキュラムの導入により、一層の基礎学力の向上に取り組み、日本大学をはじめ生徒が希望する進学先に入学できるようにサポートする。また、日本大学の教育理念「自主創造」を十分理解させ、実践できる生徒を育成する。また、教職員会議・校務運営委員会を中心に会議や委員会で活発な意見交換や評価を行い、PDCAサイクルを実施する。

〔令和5年度の自己点検・評価結果〕

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度取組方策 (Action)
教育活動	「新学習指導要領」、「高大接続改革」への対応	<p>新学習指導要領2年目となり、新たな教科でもルーブリック評価を導入した。</p> <p>高大接続改革については、新規追加の学部を含めて8学部を対象に高大連携教育を9月に実施した。日本大学生物資源科学部高大連携講義が新たに始まることとなり、66名が参加を希望した。教務部としては生徒への案内、事前指導で特に支障なく対応できた。</p>	A	<p>高大連携教育については、10月以降の文理コース・科目選択の一助として、高校1年次9月下旬に実施する。生徒が参加した学部の模擬講義やキャンパスツアーが、コース分けや将来の進路、就職に直結するため、ミスマッチのないようにしていきたい。日本大学生物資源科学部高大連携講義は、令和6年度以降も参加希望者が多くなるよう、生徒へのアナウンスをしっかりと行うようにする。</p>
	ICTを活用した授業の展開	<p>ICTを活用した授業については、教員任せになっているところが多く、全体的に十分活用しているとは言い難い。動画視聴や図表・写真等を表示して視覚に訴えるよう活用している教員が多くなっている一方で、授業プリントをスクリーンに表示しているのみの教員もいる。</p> <p>学校自己点検・評価アンケートの「ICT(情報通信技術)を活用した授業を展開しているか」について、日本大学全体では3.29だったが、本校では3.23だった(令和4年度:全体3.27, 本校3.06)。</p>	B	<p>令和5年度に本館4階のプロジェクター・スクリーンを設置したので、本館5階へのプロジェクター・スクリーンの設置が急務である。</p> <p>ICTを活用した授業に関しては、研修会への積極的な参加や講師を招いての講演会の実施等を通してスキルアップを目指す。</p>

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
教育活動	教科の目標・指導内容及び評価方法を明確にした年間指導計画の作成による適切な実施	シラバスの作成, 説明, ホームページ掲載で周知した上で, 適切な試験問題, 成績評価が次のような数値に結び付いていると考えられる。 学校自己点検・評価アンケートでは, 日本大学全体では3.24だったが, 本校では3.31だった。	A	令和6年度で新学習指導要領による教育課程が完成年度となるので, 新たな科目での指導内容・評価等が適切なものになるよう, シラバス作成時に指導する。
学校生活への配慮	いじめ防止のための取組	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な個人面談を実施した。 中高6学年で年2回, 6月と10月に「いじめに関するアンケート」を実施し, いじめの早期発見に努めるとともに, その結果を踏まえ, 迅速に細かな対応をした。 いじめの情報をキャッチしたら, 対応チームを編成し組織として対応した。いじめ対応チームは, 校長, 高校教頭, 中学教頭, 生活指導主任, 学年主任, 学級担任等で構成する。ただし, 校長が必要に応じて, 部活動顧問, 養護教諭等を加えることができる。 重大事態が発生した場合は, 直ちに関係機関に報告した。学校が調査を行う場合は, 「日本大学藤沢高等学校・藤沢中学校いじめ防止基本方針」に基づき, いじめ対応チームを中心に, 被害生徒・保護者の思いを踏まえるとともに, 調査の公平性・中立性の確保に努め, 事実関係を明確にしている。 日本大学作成のリーフレット「日本大学は, 「いじめ」を絶対に許しません! (教職員用・家庭用)」を活用し, いじめの早期発見及び防止活動に尽力した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月に教職員・生徒・保護者に対して, 学校の取組と姿勢について周知する。適宜, ホームルームを通じて注意喚起を行う。 学期に1回程度の個人面談を実施し, いじめの兆候の把握に努める。 6月と10月に「いじめに関するアンケート」を実施し, 状況の把握に努める。 インターネット上(SNS)でのいじめ防止について「サイバー犯罪防止教室(生徒及び保護者対象)」を6月に実施し, 具体的な事例を紹介してもらい, 注意喚起を行う。 部活動も含め, 保護者からの相談に対しては, 事実関係を早期に確認し, 初期対応の遅れがないように教員間の連携を強化する。複数での対応を遵守し, 組織的な対応の徹底を図り, 詳細に聞き取り内容の記録を残す。 スクールカウンセラー, 学級担任との情報共有や連携を図る。必要に応じて, 警察等の専門機関へ報告・相談を行い, 情報を共有する。 4月に日本大学作成のリーフレット「日本大学は, 「いじめ」を絶対に許しません! (教職員用)」を配布し, いじめ防止対策への取組の周知徹底を図る。 保護者会において, 同様のリーフレット(家庭用)を配布し, 家庭への啓発を強化する。ささいな情報でも軽視せず問題発生の際の兆候がないか, 保護者への確認を取り, 家庭との連携の下, 学校が早期に事実関係の調査確認を行うことを説明する。 スクールカウンセラーとの定期的な情報交換を実施し, 必要に応じて担任や保護者に対しても同様に情報共有を行う。
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 全教員で共通認識を持ち, 基本的な生活習慣の確立に取り組んだ。 遅刻や身だしなみについては, こまめに声掛けをした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 4月に全教員で共通認識の共有を図り, 適宜生徒指導できるようにする。 4月以降も状況を見て全教員が共通認識を持って生徒指導できるようにする。
	SNS上での諸問題への対応	<ul style="list-style-type: none"> SNS上での問題の大きさを理解させ, 防止に努めた。 中高1年次において, 生徒・保護者それぞれに対応した「サイバー犯罪防止教室」を継続実施した。 SNS上での諸問題について, 様々な情報や防止対策を配信した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> SNS上での諸問題, トラブルについて「サイバー犯罪防止教室(生徒及び保護者対象)」を6月に実施し, 具体的な事例を紹介してもらい, 注意喚起を行う。
課外活動	コロナ禍で縮小した学校行事の見直し	全ての行事に対して, コロナ禍前以上に盛り上がるもの, 満足度や教育効果が高いものにするため, 生徒会役員と担当教員が連携を取った。	A	令和6年度も学校行事の更なる充実を目指し, 継続して検討を重ねていく。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
課外活動	生徒による主体的な生徒会活動（学校行事含）の運営	どの行事も計画・立案・運営等については、アンケートなどで生徒の声を聞きながら、生徒会役員が中心となって、取り組んだ。	A	令和6年度更に生徒の声に耳を傾け、主体性を高めるには、それぞれの行事に対して、もっと早い時期から生徒会役員と担当教員が連携を取り、動き出し、提案内容を精査する必要がある。特に、文化祭は前年度、体育祭は1学期から検討する。
	委員会活動の充実	令和4年度に比べると、各委員会から Classi や校内の掲示板を利用して、生徒に対し情報を発信するなどの活動が充実してきた。しかし、まだ偏りがあるようだった。	B	学期ごとに各委員会において、活動計画書と活動報告書を提出するシステムの導入を目指す。
進路指導	日本大学への進学者数増加に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学祖山田顕義、日本大学及び本校の成り立ちについて、日本大学広報部広報課より提供があった資料で、中学1年生と高校1年生を対象に講演会（動画放映）を行った。これによって、日本大学や本校に対する愛校心や帰属意識の高揚を目指した。 ・高校1～3年生への日本大学進学ガイドの配布、進路指導室内に日本大学専用の書棚での学部案内、受験報告書（卒業生からのアドバイス）等を並べているほか、廊下にも日本大学の情報を掲示し、資料は持ち帰り自由として書棚に並べた。令和5年度からはNFオンラインクラスにも主要大学の受験報告書を掲載し、生徒が閲覧できるようにした。 ・日本大学各学部説明会を、6月に実施し、高校2・3年生及び保護者が各自の希望する学部の説明会に参加した。また、説明会の様子を動画撮影し、高校1年生及び保護者に配信を行った。 ・高校3年生を対象として7月に学年集会を実施し、日本大学の学校推薦型選抜（付属高等学校等）の具体的な手続や対策を伝え、日本大学への進学対策講習の参加を促した。 ・日本大学個別進学相談会を、1学期末の三者面談の時期に合わせて高校1～3年生及び保護者を対象として実施し、それぞれの興味、関心に合わせた進学相談を行った。 ・高校1～3年生が9月下旬に行われた日本大学文理学部体験授業に参加した。 ・進路指導室内に日本大学統一テスト、基礎学力到達度テスト及びその模擬試験問題、対策問題集を保管して、専任、非常勤問わず教員に開放し、試験対策に役立てた。 ・学校推薦型選抜（付属高等学校等）付属特別選抜の校内選考を学校推薦型選抜（付属高等学校等）基礎学力選抜のセレクション後に実施することで、生徒が第一希望の学部への入学者数を増やし、入学後のミスマッチを減少させた。 ・日本大学の各学部から個別で依頼された説明会・体験会・オープンキャンパスなどの案内をClassiで随時配信した。 ・12月の高校1・2年生対象の進路講演会において、日本大学の合格者から受験情報を話してもらった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校推薦型選抜（付属高等学校等）付属特別選抜の校内選考方法及び時期を見直し、学校推薦型選抜（付属高等学校等）基礎学力選抜前に受験生を確定させることを検討する。 ・日本大学が関係する以下の進路行事を実施するとともに、生徒に積極的に告知する。 4月：進路ガイダンス、講演会、日本大学進学ガイドの配布 6月：日本大学各学部説明会 7月：日本大学個別進学相談会、日本大学生物資源科学部学科説明会、見学会 12月：日本大学生物資源科学部学生との交流会 7月・3月：オープンキャンパスへの参加奨励 通年：進路指導室内の資料の充実、日本大学各学部の情報配信

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
進路指導		<ul style="list-style-type: none"> 以上の取組を通して、日本大学進学を推奨した結果、日本大学への学校推薦型選抜（付属高等学校等）合格者は約47%（12月時点）となった。 		
保健衛生	日本大学への進学の推奨と、国公立大学、難関私大学受験生への指導	<ul style="list-style-type: none"> 中学生対象の進路講演会で日々の学習時間の大切さ、高校の特別進学クラスの魅力を話してもらった。 中学校の職業学習や職業体験を実施した。 高校では、全学年に様々な説明会や講演会を実施した。 高校生に Classi で模試やガイダンスなどの案内を配信した。 横浜国立大学・横浜市立大学の進学者数増に向けた取組として、放課後講座に大学別受験講座の設置を提案した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 横浜国立大学の受験者数増については、高校2年生の2月～3月にかけて国公立希望者数が減少するという現状に鑑み、その時期の模試等の対応を検討する。 大学受験に関係する以下の進路行事を実施するとともに、生徒に積極的に告知する。 《中学校》 各学期：進路講演会、面談、実力テスト 10月：職業体験 《高校》 9月：進路動向調査 7月・3月：オープンキャンパスへの参加推奨、 各学期：面談、進路説明会、外部模試の受験奨励
	健康診断の適切な実施	<ul style="list-style-type: none"> 事前に健診業者と綿密に打合せをし、感染症対策に留意しながら、5月の2日間にわたり中高全学年の健康診断を実施した。実施に当たり、全教職員の協力が得られ、生徒の健康状態を把握することができた。 事後措置として治療勧告をするとともに、必要に応じて、管理が必要な生徒の全教職員への周知を迅速に行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度も健康診断を円滑に実施できるよう、生徒及び教職員に対して事前に健診場所や時程等、周知徹底していく。 問診票等個人情報の取扱いについて、適切に管理できるよう慎重に取り扱う。 健康診断結果を通して生徒の健康状態を把握するとともに、安心安全な学校生活を送れるよう事後措置を適切に行う。
図書	AED及びアレルギーに関する研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> 5月に教職員対象のAED研修会を対面形式で実施した。同時にアレルギー・熱中症についての研修(エピペンの使用方法やアナフィラキシー・熱中症対応)も実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 例年どおり対面形式で実施する。心肺蘇生法やAED・エピペンの使用方法に加え、年度ごとのニーズに応じたサブテーマを設け、併せて実施する。学校で起こりやすい怪我の応急処置・災害時の健康管理等、検討していく。
	感染症の対策	<ul style="list-style-type: none"> 出入口、食堂、教室等に手指消毒用のアルコール消毒液を設置した。 感染防止対策のため、学期始めや行事前等に、手洗い・生活管理・咳エチケット・部屋の換気といった感染を防ぐ、あるいは拡大を防止するための情報をClassiで配信した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策も引き続き徹底して行う。アルコール消毒液設置等の感染防止対策はもちろん、感染防止教育の推進等、年間を通して対応する。
	委員会活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度から図書委員の生徒活動として、「カウンター」、「広報」、「管理」の3つの班に分けて実施した。 図書委員による「ビブリオバトル」を実施し、各学年の優勝本を全校生徒へ紹介する企画を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 図書委員の生徒活動として「カウンター」、「広報」、「管理」の3つの班に分けて実施し、生徒主体の活動を計画する。 「管理」として、教員と司書2名で、机のアルコール消毒、50分ごとの換気等を行い、生徒が安心して図書館に来られるよう感染症対策を実施する。 ビブリオバトルの趣旨を図書委員に説明し、生徒発信で行えるように検討する。
	読書の奨励	<ul style="list-style-type: none"> 「図書だより」の発行や「新刊図書のお知らせ」を配布した。 図書室利用状況の報告を行った。 ClassiやNFオンラインで、開室スケジュールや新着案内を配信した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「図書だより」や「新刊図書のお知らせ」に関しては発行・配布方法を委員会で検討する。 図書室利用状況については引き続き職員会議にて報告する。 ClassiやNFオンラインを利用して、開室スケジュールや新着案内等生徒が利用しやすい情報を積極的に配信する。また、図書

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
図書		<ul style="list-style-type: none"> 希望図書購入の呼び掛けをした（生徒だけでなく教員に対しても行った）。 		委員の生徒から情報が発信できるよう計画する。 <ul style="list-style-type: none"> Classi のアンケート機能を利用して、希望図書購入のアンケートの実施を検討する。
	外部研修会への参加奨励	<ul style="list-style-type: none"> 外部研修会へ積極的に参加し、様々な情報を取得し、本校図書室業務に生かしていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏季の「日本大学図書館業務研修会」に複数の教員参加を促すとともに、他の研修会への積極的な参加を奨励する。
広報	本校のPRの充実	<ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力をHPで発信するとともに、受験生・保護者が閲覧しやすいように改善をした。SNSを活用した情報発信をした。 説明会・相談会のイベントを実施した。また、外部イベントにも積極的に参加した。昨年と比較して、学校案内が5,900部、個別相談の件数が553件増加している。また、本校に来場した受験生は9,131名と令和4年度と比べ29%増加となった。 Web (Zoom Webinar) を活用した学校説明会を中学校で2回、高校で3回実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校の魅力の発信を引き続き実施していく。また、刊行物においても改善し、受験生に対して見やすいものを作成していく。 説明会・相談会のイベント実施は目標を達成済であるため、継続する。 Web (Zoom Webinar) を活用した学校説明会のアンケート結果は、満足度が高いため、引き続き、時期と回数を見直し改善していく。
	生徒募集活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で説明会・相談会に対応し、安定的な志願者の確保を目指した。 中高入試では志願者数増加を目標に活動をした。 中高共に塾訪問を実施し、約70塾に説明をした。また、中学受験塾の各教室において保護者対象の説明会や実験教室等を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 中高入試において志願者数が大幅に減少していることから、全教職員で説明会・相談会に対応する。また、生徒募集活動の安定化を図る必要性から、現状の説明会・相談会に加えて、新規に説明会・相談会に参加し受験生を確保していく。 中高受験塾への説明を積極的に行い、塾生・保護者へ直接PRする機会を増やしていく。
	安定的な志願者確保	<ul style="list-style-type: none"> 11月及び12月の模試業者3社（首都圏模試、四谷大塚、日能研）の志願者数をそれぞれ合計すると、11月は748名、12月は734名とほぼ横ばいであった。しかし、日能研が最後に実施（12月中旬）した模試志願者は222名となり、11月中旬に実施した模試の模試志願者数370名と比較して40%減少している。日本大学アメリカンフットボール部薬物事件への対応に関連して、本校を敬遠したと推測できた。 出願基準等を変更し、令和4年度比30%増（志願者1,000名程度、入学者560名程度）となるように取組を実施した。11月までの相談件数は2,641件、来場者数は9,131件と令和4年度と比較して30%増に近いものであり、広報活動は順調に推移していた。しかし、出願者数は令和4年度並みとなった。中学入試において状況は悪く、志願者数は令和4年度の約70%となった。特に2月2日実施の午後入試においては、令和4年度比61%と落ち込みが激しかった。 	C	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で本校の校風・教育方針を共有し、受験生へPRしていく。 大学付属としてのメリットをアピールするとともに、他大学進学も可能な学校であることを受験生にPRしていく。 模試会場としての貸出しを積極的に行い、本校の環境と立地の良さを実感してもらう。

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)																															
広報		<ul style="list-style-type: none"> 中学校志願者数 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>回数</th> <th>男子 (人)</th> <th>女子 (人)</th> <th>計 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">令和4年度</td> <td>第1回</td> <td>120 (109)</td> <td>91 (86)</td> <td>211 (195)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>231 (198)</td> <td>101 (79)</td> <td>332 (277)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>140 (111)</td> <td>76 (57)</td> <td>216 (168)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">令和5年度</td> <td>第1回</td> <td>84 (76)</td> <td>77 (77)</td> <td>161 (153)</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>134 (117)</td> <td>69 (54)</td> <td>203 (171)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>103 (77)</td> <td>61 (37)</td> <td>164 (114)</td> </tr> </tbody> </table>	年度	回数	男子 (人)	女子 (人)	計 (人)	令和4年度	第1回	120 (109)	91 (86)	211 (195)	第2回	231 (198)	101 (79)	332 (277)	第3回	140 (111)	76 (57)	216 (168)	令和5年度	第1回	84 (76)	77 (77)	161 (153)	第2回	134 (117)	69 (54)	203 (171)	第3回	103 (77)	61 (37)	164 (114)		
		年度	回数	男子 (人)	女子 (人)	計 (人)																													
		令和4年度	第1回	120 (109)	91 (86)	211 (195)																													
			第2回	231 (198)	101 (79)	332 (277)																													
第3回	140 (111)		76 (57)	216 (168)																															
令和5年度	第1回	84 (76)	77 (77)	161 (153)																															
	第2回	134 (117)	69 (54)	203 (171)																															
	第3回	103 (77)	61 (37)	164 (114)																															
<ul style="list-style-type: none"> ※ () 受験者数 																																			
<ul style="list-style-type: none"> 高校志願者数 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>推薦入試 (人)</th> <th>一般入試 (専願) (人)</th> <th>一般入試 (併願) (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>169</td> <td>24</td> <td>682</td> </tr> <tr> <td>令和5年度</td> <td>151</td> <td>32</td> <td>719</td> </tr> </tbody> </table>		推薦入試 (人)	一般入試 (専願) (人)	一般入試 (併願) (人)	令和4年度	169	24	682	令和5年度	151	32	719																							
	推薦入試 (人)	一般入試 (専願) (人)	一般入試 (併願) (人)																																
令和4年度	169	24	682																																
令和5年度	151	32	719																																
管理運営 (分掌・会議・委員会、財政、施設・設備等)	会議・委員会の活発化	<p>各々の責任者が校務分掌や各種委員会をはじめ、教職員会議や校務運営委員会において、活発で前向きな意見交換を行い、教育内容の充実及び志願者数の増加や進学実績の向上が図れるように、P D C Aサイクルの指示をした。</p>	A	令和6年度においても各種会議・委員会を活発化させ、教育内容の充実及び志願者数の増加や進学実績の向上を図り、継続してP D C Aサイクルが行われるように指示をする。																															
	生徒による学級経営に関する評価アンケートの実施	<p>本アンケートの実施目的は、ホームルーム活動での69項目の様々な指導が的確に行われ、クラス間で差が生じることによって生徒の不利益が起きないことを目的としている。また、教育目標(校訓や三つの指針)が高いレベルで達成されるための指標となるものにし、と考えて実施した。</p> <p>実施結果としては各項目について生徒に[4当てはまる]、[3だいたい当てはまる]、[2あまり当てはまらない]、[1当てはまらない]の評価を入力させ、平均3.499の評価を得た。</p>	A	令和6年度においても「生徒による学級経営に関する評価アンケート」を継続実施することで、教員個々の担任力の向上を図る。																															

評価項目	取組目標 (Plan)	取組状況 (Do)	達成状況 (Check)	令和6年度の取組方策 (Action)
管理運営 (分掌・会議・委員会、財政、施設・設備等)	安定した生徒募集活動の実施	令和6年度の生徒募集については、コロナ禍後においても説明会や見学会での様々な工夫と努力を行うことで、志願者数を増加させる努力をしたが、予想ほど志願者数を増やすことができなかった。	C	令和7年度の中学校・高校の生徒募集については、学校説明会の改善や見学会の様々な工夫を行うことで、志願者数の増加に取り組む。
	新体育館の建設	部室棟として利用していた1・2号館の解体跡地に、令和11年度完成を目指して、新体育館の建設計画の検討を開始した。	B	新体育館の建設のための会議を行い、令和6年度は中学校・高校での原案をまとめる。

〔令和5年度の自己点検・評価結果概要〕

魅力的な説明会や見学会を目指して様々な工夫と努力を行い、志願者数を増加させる努力をしたが、予想ほど志願者数を増やすことができなかった。充実したカリキュラムにより、生徒が基礎学力を向上し、日本大学をはじめ生徒が希望する進学先に入学できるようにサポートした。また、日本大学の教育理念「自主創造」を十分理解し、実践できる生徒の育成に尽力した。

以上のことを念頭におき、それぞれの校務分掌で目標達成に向かって様々な取組を行った。さらに、教職員会議・校務運営委員会を中心に会議や委員会で活発な意見交換や評価を行い、PDCAサイクルを実施した。

〔令和6年度の重点目標〕

令和7年度の中学校・高校の生徒募集については、令和6年度入試の反省を踏まえ、学校説明会の改善や見学会での様々な工夫を行うことで、志願者数の増加に取り組む。また、全ての教室のプロジェクター・スクリーンの設置が令和6年度で完了するのに伴い、それを活用した授業や研修会への積極的な参加、講師を招いての講演会の実施等を通して教員の授業力のスキルアップを行い、ICTを活用した授業を実施する。そして、生徒に対しては基礎学力の向上を目指し、日本大学をはじめ生徒が希望する進学先に入学できるように一層のサポートをする。さらに、生徒は日本大学の教育理念「自主創造」を十分理解し、生徒会における委員会活動の充実を図ることなどを通して、自ら道をひらくことのできる生徒の育成を図る。

以 上